

令和7年度実証事業(実証事業A)の実施

令和7年5月

国土交通省 中国運輸局

令和7年度実証事業(実証事業A)の実施

○ 令和7年度実証事業（実証事業A）の実施

（実証事業A）

- ・ 第3回協議会の調査事業A最終報告において、事業の受託事業者（株式会社野村総合研究所）から、地域経済効果を検証するため実証実験を行うことが望ましい9項目（6施策）について提案
- ・ 上記を含めて施策アイデアとして30項目が提案されており、9項目を中心としつつその他の項目も排除せず、幹事会において具体化・詳細化を図っていくこととされた（議長から、幹事会での内容の具体化と今年度の早期実施について指示）
- ・ 事務的に調整した結果、次頁以降のとおり、幹事会として令和7年度実証事業（実証事業A）を実施することとしたい
- ・ なお、事業費は、実証事業Aの開始時期・実施期間・実施規模等を踏まえれば、国庫補助（地域公共交通再構築事業費補助）の上限である1億円以内での実施が可能となる見込み

（事業委託）

- ・ 実証事業Aの実施に当たっては、企画提案を求める公募を行うこととし、提案のあった内容について、最も評価の高かった提案者を契約の相手方として選定

具体的内容

1. 住民・来訪者利用に合わせた鉄道サービスの拡充・二次交通との連携強化

①芸備線の増便・ダイヤ変更

平日・土休日において、列車の増便・ダイヤ変更による運行を実施（ただし、増便等の準備期間や人員配置上困難な期間は、バスによる擬似的な増便を実施）

実施内容としては、アンケート・ヒアリングで意見が多かった以下の運行を想定

- ・主として地域住民の利用を対象として、毎日夕刻以降に運行（増便又はダイヤ変更）
- ・主として観光客等の来訪者を対象として、土休日に運行（増便）

②二次交通との連携強化

ア デマンド交通の活用

芸備線通常ダイヤや増便ダイヤに合わせ、特定区間を有する庄原地域・西城地域・東城地域・哲西地域において、バス・乗合タクシーなど二次交通のアクセスを改善

イ 企画乗車券の設定

芸備線と二次交通の利用促進を図るため、相互に利用可能となる企画乗車券（共通乗車割引券等）を設定

具体的内容

2. 列車による観光コンテンツの形成

①列車の観光コンテンツ化

増便等の列車において、内外装のラッピングやヘッドマーク掲出を実施するなど列車自体の観光コンテンツ化を図る

②観光商品・旅行商品の提供

- ・沿線地域の付加価値の高い「コト」「モノ」消費を発掘し、沿線地域の観光地・観光施設・商業施設において提供
- ・地域食材を生かした商品を宿泊施設・飲食店・列車内において提供

③駅周辺のにぎわい創出

増便等の取組や列車の観光コンテンツ化と合わせ、駅や周辺施設でのイベント（駅マルシェ等）を実施

④観光ツアー造成

上記を活用した観光ツアーを造成し、プロモーションを実施

具体的内容

3. 広域的な周遊コンテンツとの連携

全国的な顧客基盤を有する既存周遊コンテンツ（スマホアプリ）と連携したタイアップイベント等を実施

4. 広域拠点としての駅舎活用・産業拠点形成

①駅の拠点化

特定区間沿線地域の駅舎の空きスペースを活用して、リモートワークが可能なコワーキングスペースを設置し、企業のサテライトオフィス化を通じた駅の拠点化を図る

②企業誘致のためのモニターツアー等の実施

サテライトオフィスを希望する企業を誘致するため、芸備線を利用した視察旅行やモニターツアー等を実施

5. 芸備線や駅周辺施設を活用した移住体験の提供による定住促進

駅周辺の空家を活用した移住体験プログラムを提供（プログラムでは、地域における自然・文化・食に触れる体験を提供するほか、コワーキングスペースを活用して就業環境も提供）

6. 既存事業の強化・支援

自治体や地域団体が実施する芸備線再構築に資する取組に対し、取組のプロモーション等による強化・支援を実施

7. 施策実施で得られたデータの分析

施策の実施で得られた利用者数や消費額などのデータを分析して効果検証を行い、実際の地域経済効果を測定

令和7年度実証事業(実証事業A)の検討

第3回協議会：令和7年3月26日(水)開催

①「実証事業A」で新事業の実証実験を行うことが望ましい 施策は9項目

大分類	小分類	#	施策名	備考	
鉄道の運行形態改善	ダイヤ改善	1	住民利用に合わせた列車の運行	二次交通の拡充、増便、芸備線と二次交通を組合せた企画乗車券など	費用対効果試算と施策の詳細化は、2施策一体的に実施
		2	来訪者利用に合わせた列車の運行	二次交通の拡充、増便、芸備線と二次交通を組合せた企画乗車券など	
二次交通との連携強化	公共交通間の接続強化	5	生活・観光拠点の利便性を向上させる新たな交通結節点の形成	きらめき広場哲西など	費用対効果試算と施策の詳細化は、2施策一体的に実施
		6	住民利用に合わせた二次交通との連携・新規導入	二次交通の新設、増便など	
		7	来訪者利用に合わせた二次交通との連携・新規導入	二次交通の新設、増便など	費用対効果試算と施策の詳細化は、2施策一体的に実施
産業・観光分野における芸備線の活用	列車活用による観光需要の喚起	13	列車自体の観光コンテンツ化	地域の食材を活かしたコンテンツの提供（列車内での食材提供、駅弁提供、カフェ・バー列車）、季節のお出かけ需要に応じた団体臨時列車ツアー、列車内外装の整備（ラッピング、ヘッドマーク、音声案内）、新たな観光列車の導入など	
	イベント・ツアー・商品開発による観光需要の喚起	18	全国的な周遊コンテンツとの連携	位置情報を活用したゲームアプリ等とのコラボ、アニメやマンガとのコラボなど	
拠点としての駅舎・周辺施設の有効活用	産業・観光拠点の形成	24	駅施設を活用した仕事・産業の拠点形成	コワーキングスペース、インキュベーション施設など	
自治体における地域活性化・移住定住・立地適正化施策の推進	移住の喚起	26	鉄道や駅周辺施設を活用した移住体験の提供	ローカルダイブ・トレインと連携したお試し移住など	

施策#1、2の取組イメージ（住民・来訪者利用に合わせた列車の運行）

施策名

住民・来訪者利用に合わせた列車の運行

観点

①利用しやすい交通の整備



②移住・定住の促進

③交流・関係人口の誘客

④地域内消費の拡大

⑤地域内投資の拡大

インプット 示唆

36項目 データ分析、 アンケート

- 住民の公共交通に対するニーズとして、ダイヤ変更や増便を挙げる声が多い（#18）
- 住民アンケートで、約21%の人が「ダイヤ変更」による利用増加の可能性を示した
- 住民の希望ダイヤは、往路が8～10時台、復路は15～20時台に分散している。このうち、既存の列車がカバーしない時間帯として、特に18～20時台の備後庄原→備後方面、17・19・20時台の新見→東城方面が挙げられる
- 来訪者アンケートで、二市に到着する時間は10～12時台が最多だった一方で、当該時間帯には芸備線の備後庄原→備後西城→備後落合方面、新見→東城→備後落合方面の列車が設定されていない

ヒアリング

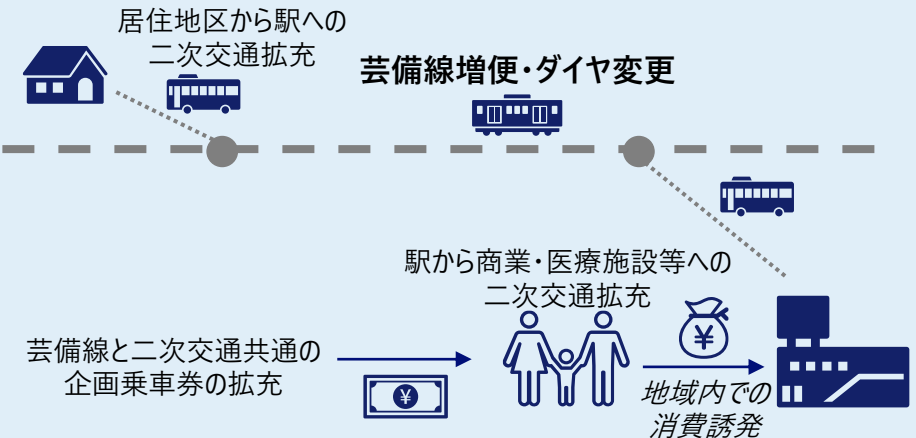
- 利用上の課題として、「ダイヤの不便さ」を挙げる人が多く、特に「高校生の部活動に合わせた18時以降の便」や、「買物・通院に合わせた日中の便」が挙がった

構成員による既存検討

- 芸備線・庄原ワーキンググループや、二市における検討の中で、増便の必要性が認識されている

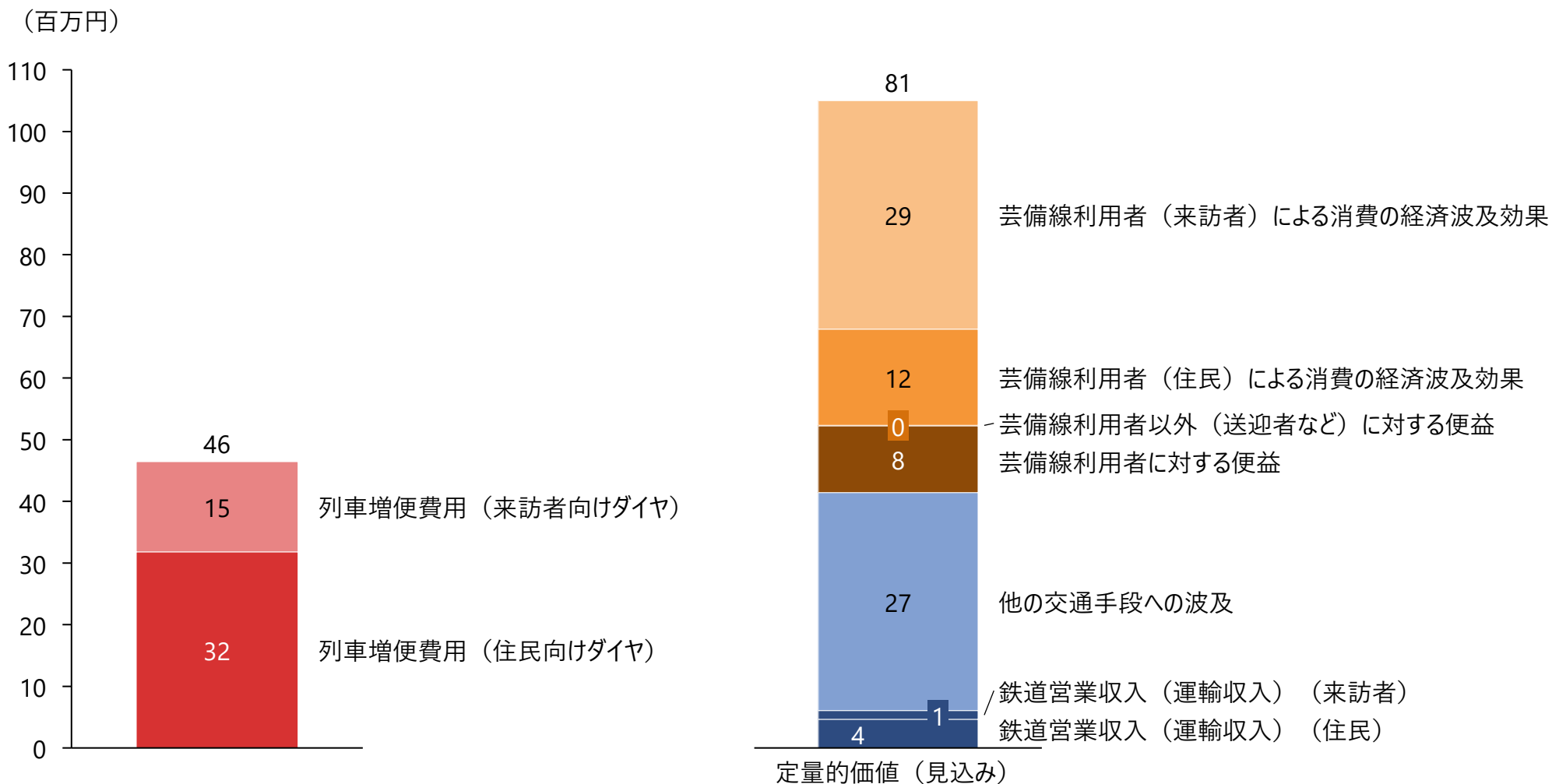
取組のイメージ

- 主に住民向けのダイヤとして、帰宅時間帯の備後庄原→備後落合方面、新見→東城方面の列車を設定
- 主に来訪者向けのダイヤとして、土休日に三次⇔備後庄原⇔新見間で1往復の列車を設定
- 「二次交通との連携・新規導入」や地域の外出促進施策と一体的に実施することで、新規の利用・外出・来訪需要を掘り起こす
- 実証段階では、バスによる擬似的な増便も含め検討する



施策#1、2の費用対効果

費用対効果の試算結果



施策#5、6の取組イメージ（新たな交通結節点の形成および住民向け二次交通との連携・新規導入）

施策名

新たな交通結節点の形成および住民向け二次交通との連携・新規導入

観点

①利用しやすい交通の整備



②移住・定住の促進

③交流・関係人口の誘客

④地域内消費の拡大

⑤地域内投資の拡大

インプット 示唆

36項目 データ分析、 アンケート

- ・住民の公共交通に対するニーズとして、家の近くでの乗降や、交通手段間の乗継改善を挙げる声が多い（#18）
- ・住民アンケートで、**約17%の人が「二次交通整備」による利用増加の可能性を示した**
- ・二次交通の整備を希望する箇所は、「目的地の最寄駅から目的地まで」が「自宅から最寄り駅まで」よりやや多く、**目的地としては、新見駅・備後庄原駅を挙げた人が多い**
- ・目的地として上位に挙げられる商業施設や医療施設は、鉄道沿線に存在するものの、**駅から1～2km程度離れている施設が多く、駅からのアクセスが課題**（#9）
- ・沿線に存在する「きらめき広場哲西」は、**地域の拠点施設**であり、民間バス路線が乗り入れる一方、駅からは離れており、ポテンシャルを活かしきれていない可能性がある（#17、28）
※参考事例として「道の駅きたごう」が存在（#21）

ヒアリング

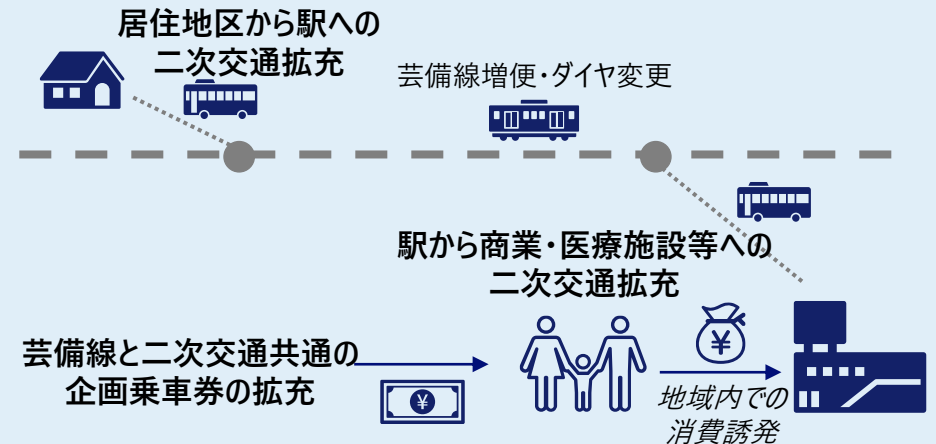
- ・利用上の課題として、「二次交通との接続の悪さ」を挙げる人が多い

構成員による既存検討

- ・芸備線・庄原ワーキンググループや、二市における検討の中で、二次交通整備の必要性が認識されている

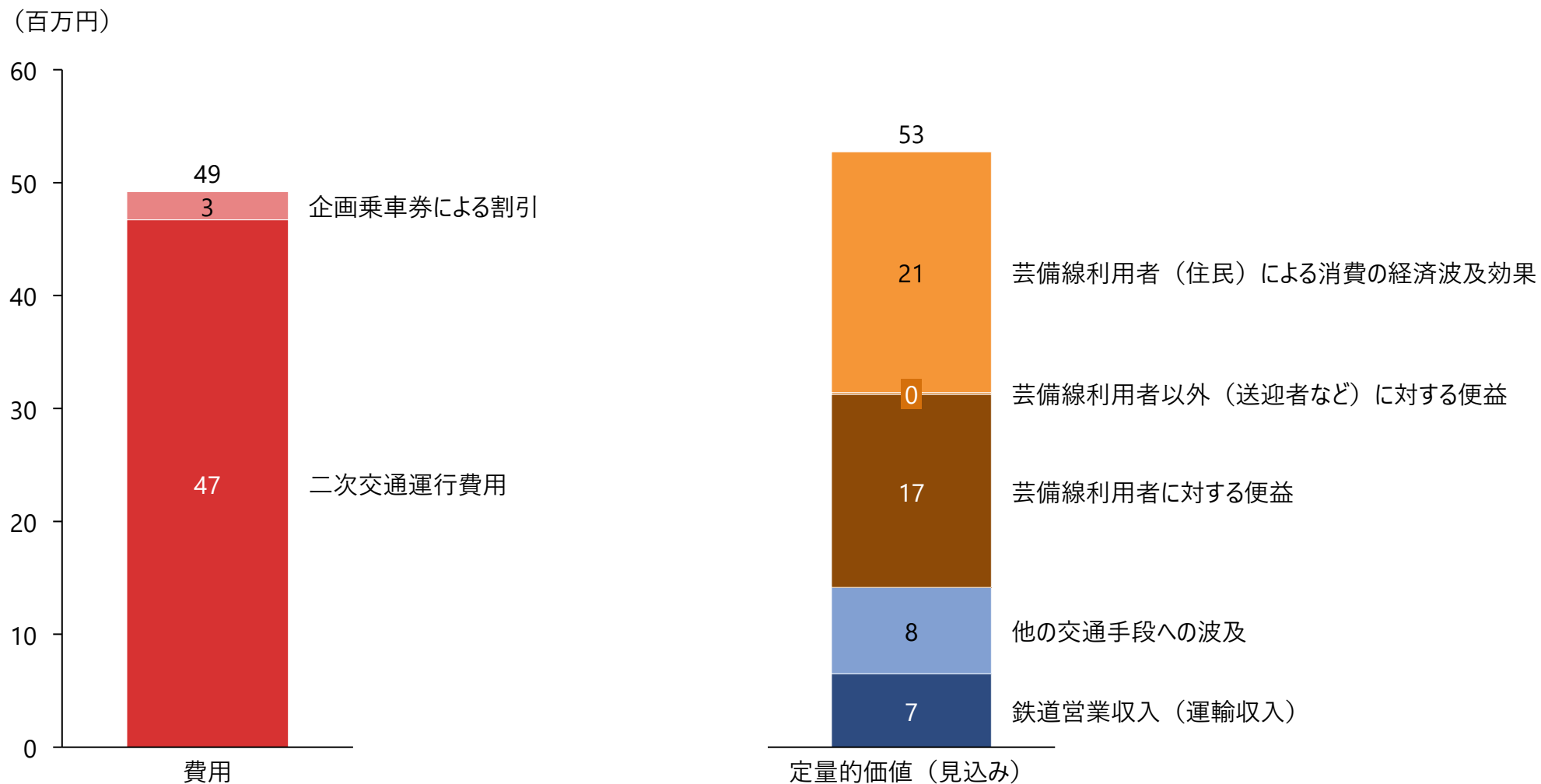
取組のイメージ

- 新見駅・備後庄原駅から、周辺の商業施設・医療施設に向かう二次交通の整備、拡充等を実施する（実証段階では、列車の発着に合わせてジャンボタクシーで送迎を行うなど簡易な形を想定）
- 各居住地区から芸備線の駅に向かう二次交通は、必要に応じてダイヤの接続を改善する
- 芸備線と二次交通で一体的に利用可能な企画乗車券の販売や、地域の外出促進施策との連携を行う
- 「きらめき広場哲西」を地域の交通結節点とするため、矢神駅・野馳駅等からのアクセス交通を整備する



施策#5、6の費用対効果

費用対効果の試算結果



施策#7、13の取組イメージ（列車自体の観光コンテンツ化および来訪者向け二次交通との連携・新規導入）

施策名

列車自体の観光コンテンツ化および来訪者向け二次交通との連携・新規導入

観点

①利用しやすい交通の整備

②移住・定住の促進

④地域内消費の拡大

③交流・関係人口の誘客

⑤地域内投資の拡大

インプット 示唆

36項目 データ分析、 アンケート

- 新見市・庄原市の主要な観光地へは自家用車による来訪が多く、鉄道のポテンシャルを活かしきれていない（#10）
- 沿線の主要観光地（備北丘陵公園、親子孫水車等）は、駅からの二次交通が運行されていないケースや、土休日は運休のケースが多く、鉄道を利用して観光周遊することが難しい（#28）
- 来訪者アンケートでは、「駅から目的地までの公共交通整備」、「鉄道とバスの接続待ち時間減少」、「イベント列車」等の施策によって、芸備線利用に変更する意向を示す人が一定数見られた

ヒアリング

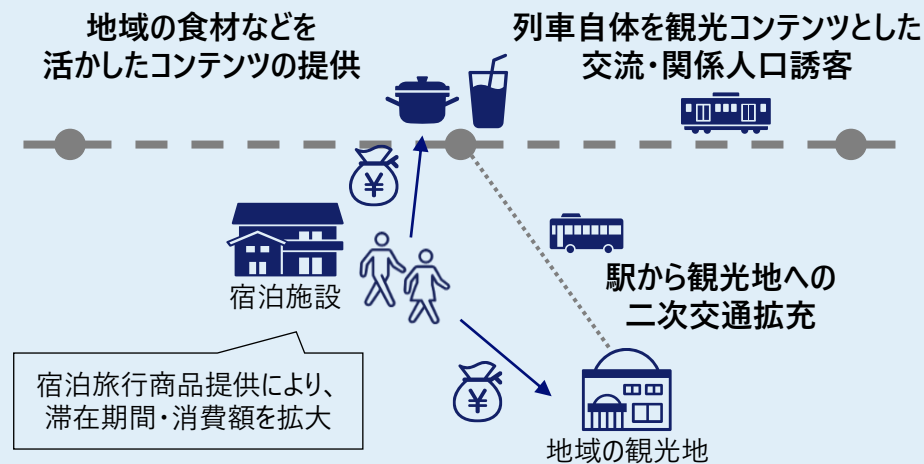
- 観光誘客に向けた取組として、「庄原ライナー」の通年運行化や、観光列車の導入、地域の食材などを活かしたコンテンツの提供などのアイデアが見られた

構成員による既存検討

- 芸備線・庄原ワーキンググループで、「芸備線駅弁製作・販売」、「観光ツアー造成」（団体列車や貸切列車の運行）などのアイデアが挙がった

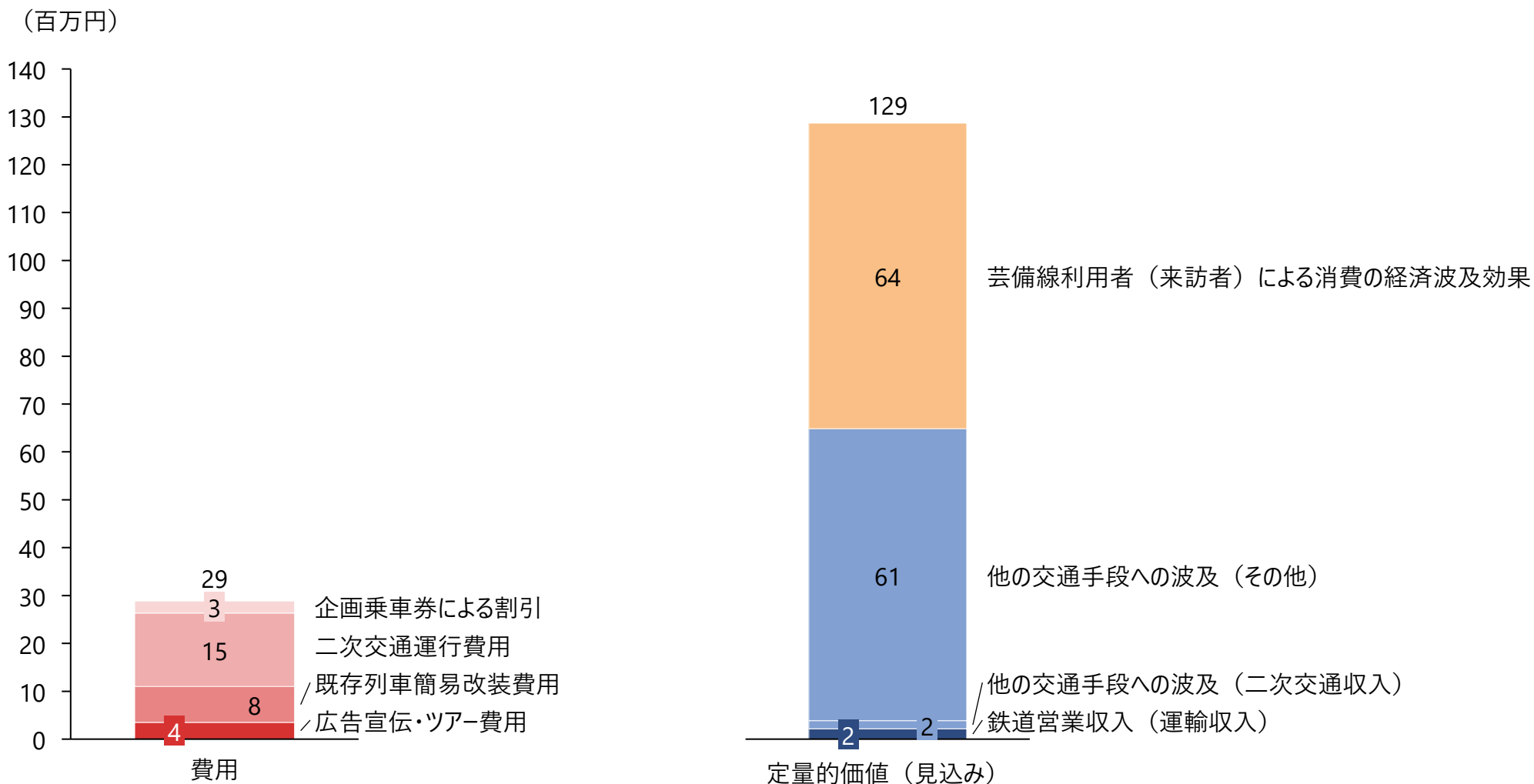
取組のイメージ

- 三次～備後庄原～備後落合間で、土休日に1往復の臨時列車を運行
※実証段階では、施策#2の来訪者向け臨時列車と同じダイヤを活用
- 当該列車は、地域の食材などを活かしたコンテンツの提供、内外装のラッピング、ヘッドマーク掲出などを行い、列車自体を観光コンテンツとして誘客に活用する
- 列車到着に合わせた二次交通（観光ツアー等）を設定する



施策#7、13の費用対効果

費用対効果の試算結果



注) 列車運行に係る費用は施策#2に含まれる

施策#18の取組イメージ（全国的な周遊コンテンツとの連携）

施策名

全国的な周遊コンテンツとの連携

観点

①利用しやすい交通の整備



②移住・定住の促進

③交流・関係人口の誘客

④地域内消費の拡大

⑤地域内投資の拡大

インプット 示唆

36項目 データ分析、 アンケート

- 新見市・庄原市の主要な観光地へは自家用車による来訪が多く、鉄道のポテンシャルを活かしきれていない（#10）
- 新見市の観光客数はコロナ前水準に回復しているものの、庄原市はコロナ前水準を下回って推移しており、新たな観光コンテンツによる誘客が望まれる（#12）

ヒアリング

- 観光誘客に向けた取組として、「芸備線沿線での地域一帯型のイベント」や、「鉄道ファン向けのPR」などのアイデアが挙がった

構成員による既存検討

- 芸備線・庄原ワーキンググループで、「芸備線×アプリケーショントラボ」のアイデアが挙がった

取組のイメージ

- 強力な顧客基盤を持つ周遊コンテンツ（例：スマートフォンゲーム「駅メモ！」）とタイアップイベントとして、芸備線の駅や周辺の観光拠点を対象としたデジタルタンブラー等を行う

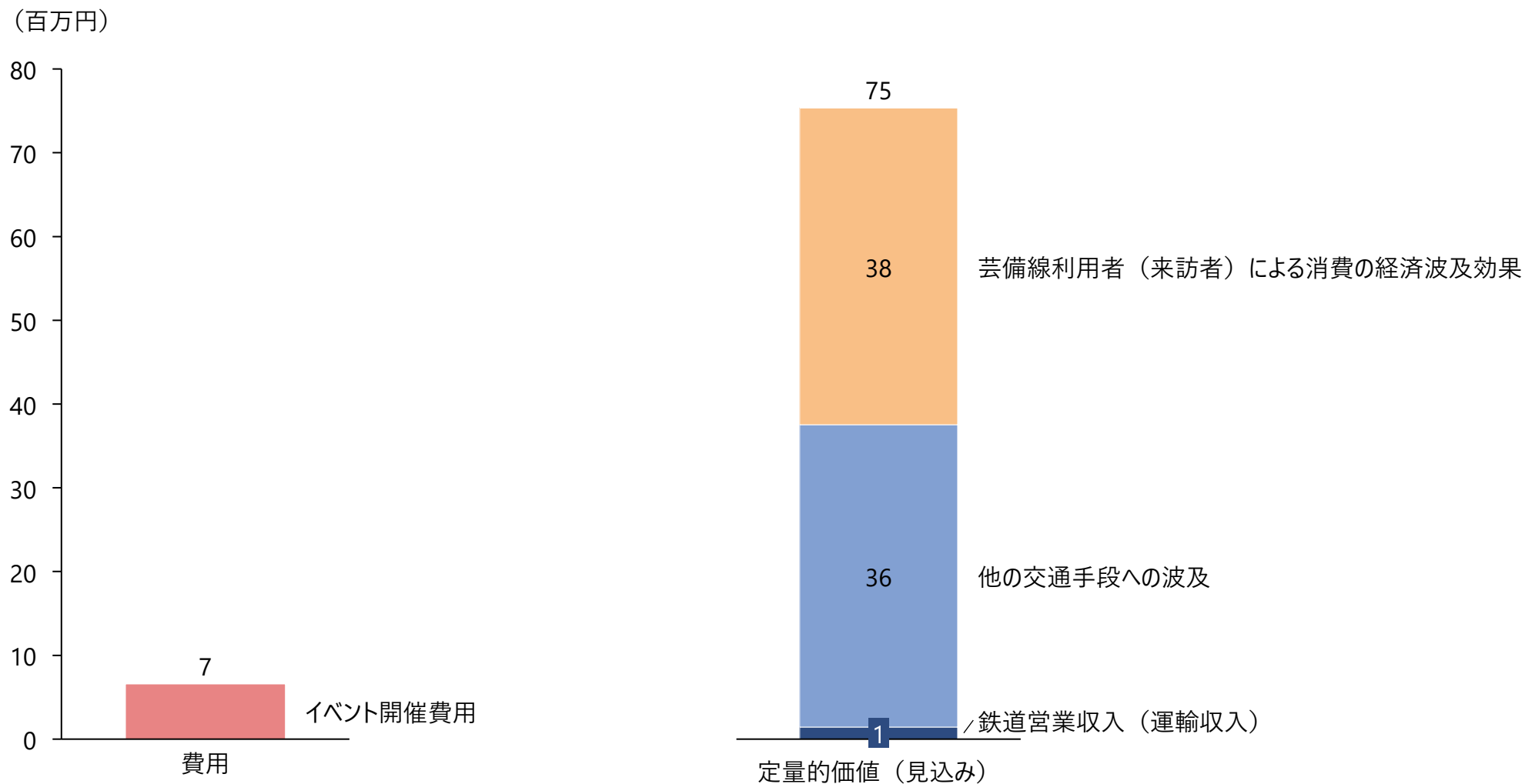
【参考】「駅メモ！」シリーズは、各地のローカル線を舞台としたタイアップイベントの実績を豊富に有する



画像出所) モバイルファクトリー社プレスリリース『「駅メモ！」シリーズ小谷村・糸魚川市とコラボ決定『南小谷れんげ』が大糸線PR公認キャラクターに！』

施策#18の費用対効果

費用対効果の試算結果



施策#24の取組イメージ（駅施設を活用した仕事・産業の拠点形成）

施策名

駅施設を活用した仕事・産業の拠点形成

観点

①利用しやすい交通の整備



②移住・定住の促進

③交流・関係人口の誘客

④地域内消費の拡大

⑤地域内投資の拡大

インプット 示唆

36項目 データ分析、 アンケート

- ・新見市・庄原市では、地域の産業が縮小傾向にあり、事業所数も減少している中で、**新たな産業の誘致・振興が課題**となっている（#4）
- ・ローカル線再生事例では、**平成筑豊鉄道・油須原駅で大学と連携した協働研究室が設置**されるなど、駅舎を地域の産業拠点として有効活用する事例が見られる（#21）
- ・**備後庄原駅・備後西城駅・東城駅・野馳駅・矢神駅周辺には事業所が点在**しており、商談等のビジネスでの往来も一定存在すると考えられる（#4）

ヒアリング

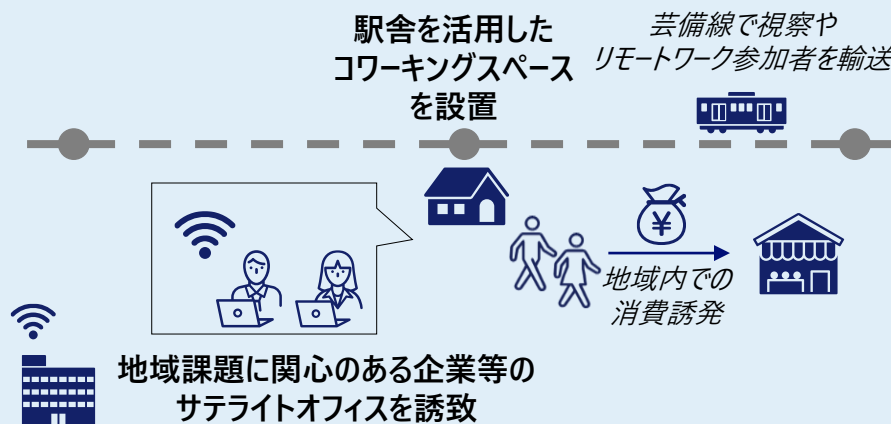
- ・産業振興に向けた取組として、「**駅舎を活用したコワーキングスペースやサテライトオフィス等の設置**」などのアイデアが見られた

構成員による既存検討

- ・芸備線・庄原ワーキンググループで、「**サテライトオフィス開設・スタートアップオフィスの開設**」、「**過疎課題に取り組む企業誘致**」のアイデアが挙げられた

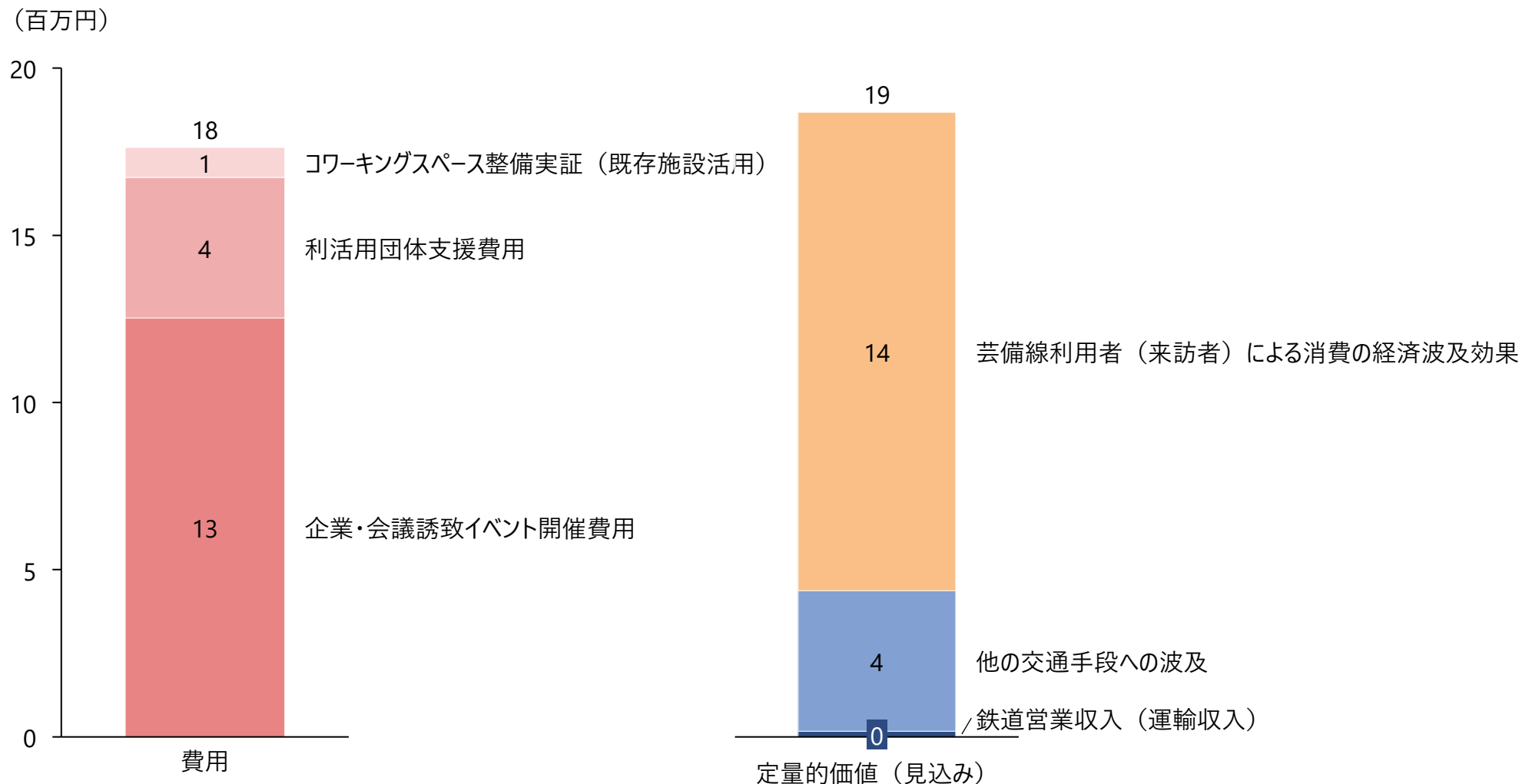
取組のイメージ

- 備後庄原駅、備後落合駅等の駅舎を活用したコワーキングスペースを設置し、地域課題に関心のある企業等のリモートワーク（サテライトオフィス）を誘致する
（実証段階では、大規模改装が困難なため、空きスペースを活用）
- 上記企業を対象に、芸備線を用いた視察・モニターツアーを実施する



施策#24の費用対効果

費用対効果の試算結果



施策#26の取組イメージ（鉄道や駅周辺施設を活用した移住体験の提供）

施策名

鉄道や駅周辺施設を活用した移住体験の提供

観点

①利用しやすい交通の整備



②移住・定住の促進

③交流・関係人口の誘客

④地域内消費の拡大

⑤地域内投資の拡大

インプット 示唆

36項目 データ分析、 アンケート

- ・新見市、庄原市では、今後人口減少が加速する見通しで、**関係人口・定住人口の掘り起こしが課題**となっている（#1、2）
- ・特に特定区間沿線では人口減少が著しい（#6）

ヒアリング

- ・地域が抱える課題については、人口減少・高齢化に意見が集中した
- ・関係人口創出に向けた取組として、「ローカルダイブ・トレインの運行継続」を期待する声があった
- ・鉄道の存在が、地域の人々の交流を生み出しているほか、まちの「格」、認知度の向上に貢献しており、関係人口の創出に役立てるべきとの声があった

構成員による既存検討

- ・芸備線・庄原ワーキンググループで、「**サテライトオフィス開設・スタートアップオフィスの開設**」のアイデアが挙がった

取組のイメージ

- ローカルダイブ・トレインの取組を発展させ、駅周辺の空き家等を活用した移住体験プログラムを提供する
- 施策#24で設置するコワーキングスペースとも連携して、プログラム参加者にリモートワーク体験など就業環境も提供し、関係人口化・定住人口化を図る

モニターツアー実施による
交流・関係人口誘客

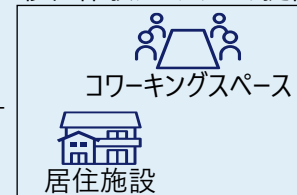


「ローカルダイブ・トレイン」の提供



ローカル線に乗り、地域の方や自然、文化、食などに触れる

移住体験プログラムの提供



移住・定住の促進

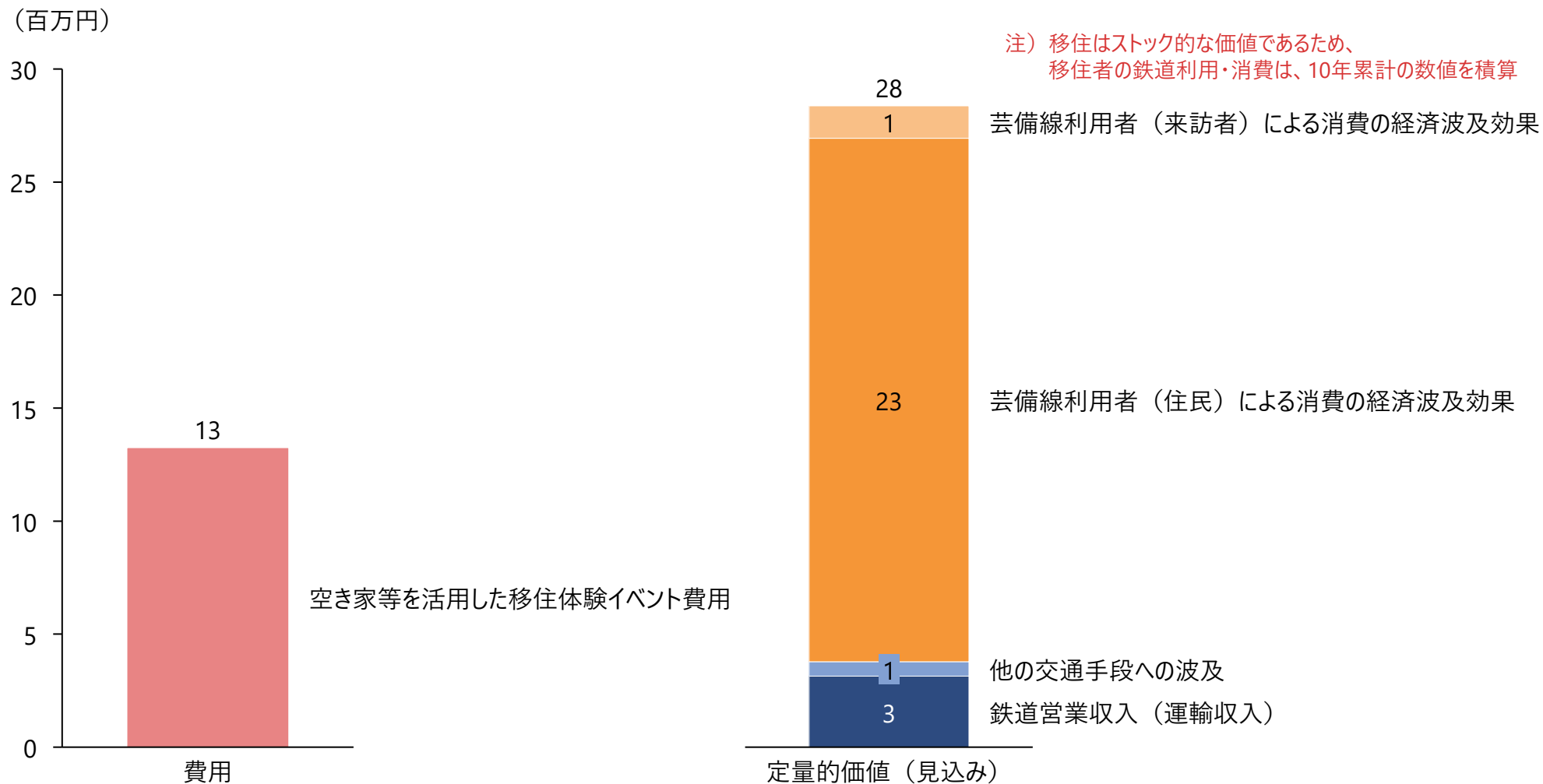


地域内での消費誘発



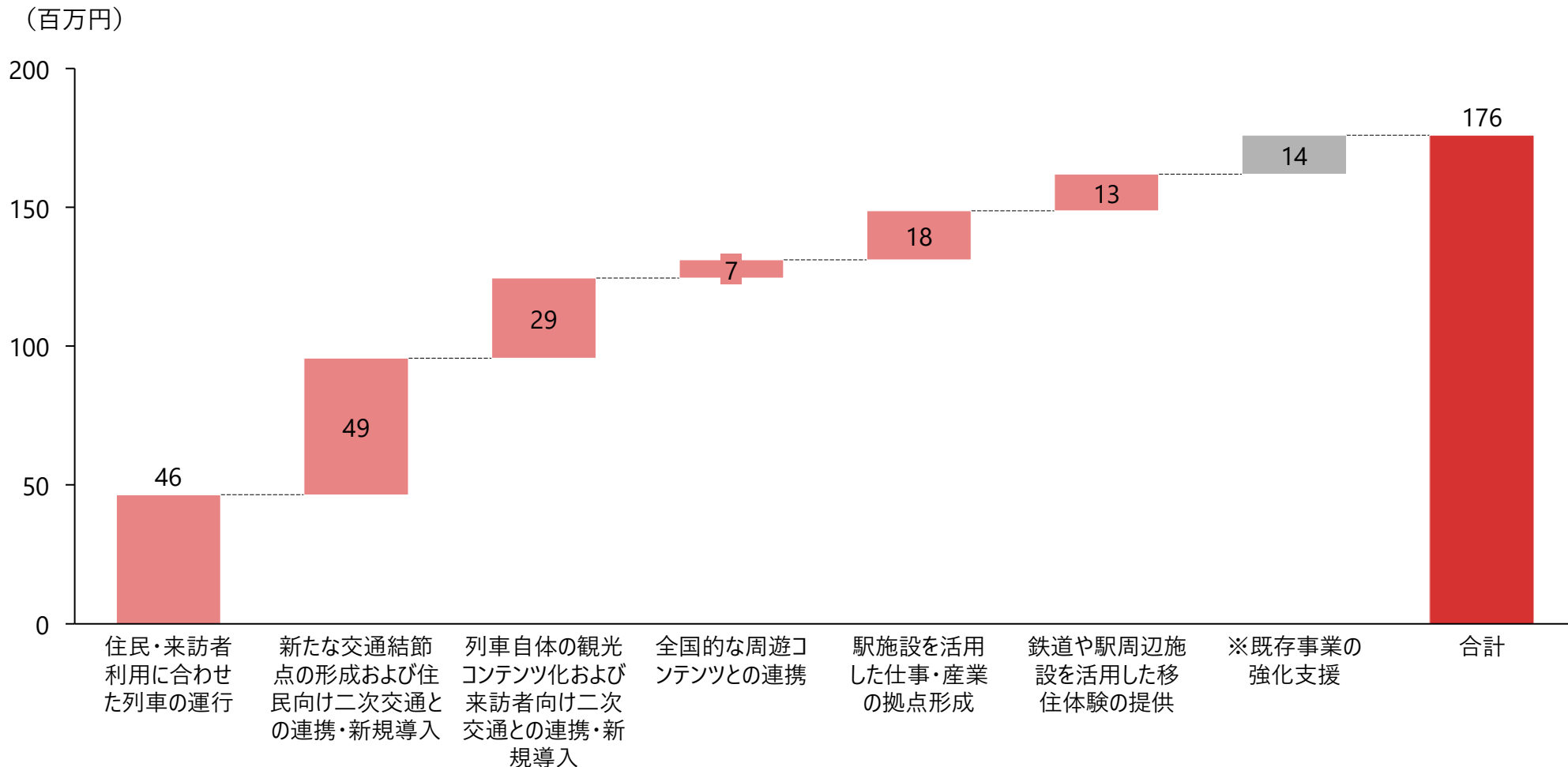
施策#26の費用対効果

費用対効果の試算結果



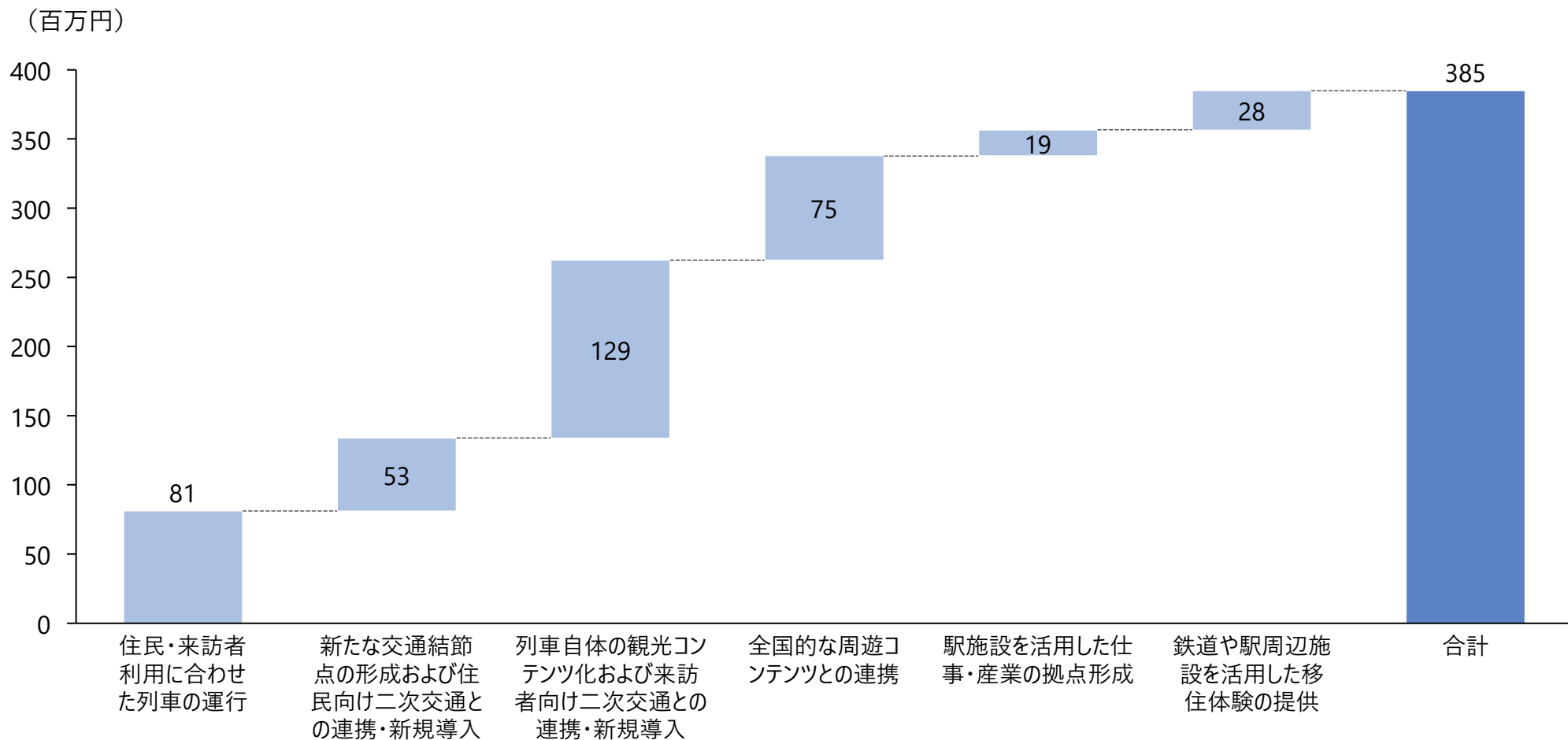
現状の次年度実証案を積み重ね、「既存事業の強化支援」も行うと、 実証費用は通年で約1.8億円

来年度年間実証費用の試算



現状の施策案を積み重ねた効果は、約3.8億円

施策効果の試算



注) グラフ上の合計は「3.85億円」だが、小数点第3位以下を加味すると、概数は「3.8億円」となる